

# キャリア教育の単元開発による 特色ある学校づくり

教科・領域 総合的な学習の時間

山口市立二島中学校全学年

## キャリア教育の観点

中学校卒業後の進学・就職先等、どのような場面にも対応しうる汎用性のある能力に加え、人口減少、少子高齢化の進む地域の将来を思いやる郷土愛とその活性化に携わる実践意欲を育成するために開発されてきた総合的な学習の時間の単元の概要について紹介します。

【基礎的・汎用的能力全般】

## 単元開発の出発点

	全校	1年	2年	3年	ボランティア
<b>1学期</b>	新入生歓迎会 勤労生産(梅収穫) 勤労生産(芋苗植) 生徒総会	心のゆとりを養う 訪問活動	統計ソフトコンクール 学校プロジェクト 学校プロジェクト	統計ソフトコンクール 学校プロジェクト 学校プロジェクト	二島地区体育祭 資源ゴミ回収① 美濃ヶ浜清掃 資源ゴミ回収②
<b>2学期</b>	体育祭 勤労生産(芋収穫) 文化祭 校内クロスカントリー お弁当の日① 友愛訪問	やまぐくろ探訪 ふれあい訪問活動 秋の味覚を楽しませ ボランティア 社会参画	職場体験学習(市内・3日) ボランティア 社会参画	社会参画ボランティア 乳幼児交流体験 幼稚園参観 高校体験入学・オープンキャンパス報告会	二島地区敬老会 二島小学校体育祭 ふたじままつり 資源ゴミ回収③
<b>3学期</b>	お弁当の日② 3年生を送る会 お弁当の日③	職場体験学習(校区内・2日) 先輩に学ぶ会 デイバーアップ	修学旅行 デイバーアップ	卒業スピーチ	資源ゴミ回収④

上図は本校の平成25年度キャリア教育プログラムの概要である。そのうち、黄色で示された部分が最近4年間に新たに開発され、定着しつつある単元である。

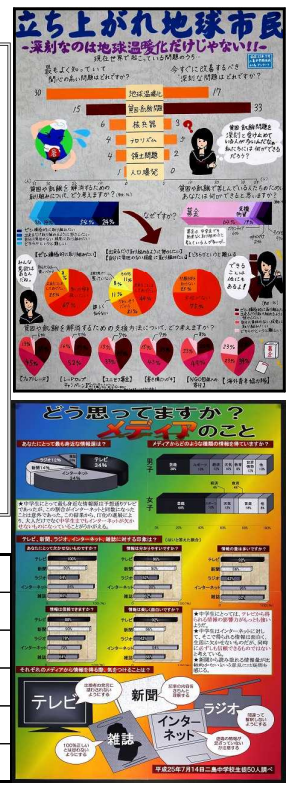
このプログラムの策定までの流れについて紹介する。まず、基礎的・汎用的能力の育成という観点から、全教育活動を振り返る、いわゆる「洗い出し」の作業を行った。具体的には、

キャリア教育の要素を含む全実践について、学年別、教科・領域別、基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力別に分類し、取組が不足している対象を明らかにした。（本校の場合、課題対応能力の育成に重点をおいた取組が手薄であることが認識された。）そして、以後、プログラムの開発によって特色ある学校にしたいという教員集団の思いから、年度に1つないし2つの単元が総合的な学習の時間を中心に新たに開発されるようになり、ようやく現在のプログラムの形にたどり着いた。

## 統計グラフコンクールへの挑戦

平成24年度から始まった第2・3学年の生徒を対象とした活動である。これは自分の興味・関心に基づくテーマ設定を起点とし、数ヶ月にわたる調査活動・情報の処理分析などの過程を経て、その結果と考察をB2サイズの用紙に美術的なグラフ表現によってまとめるというもので、課題発見・解決力や粘り強く物事に取り組もうとする姿勢を育むことを目的としている。ポイントとなるのは右図「基本的な単元計画」⑤のシナリオシートの作成である。このシートは学習指導案のような書式をしているのだが、生徒はポスターに表示する統計データやアンケート結果を含む資料によって、ポスターを見る側に何を感じてほしいのか、自問自答しながら埋めていった。それによって、単なるグラフの羅列ではない、解決したい課題や伝えたいメッセージを意識しながらポスター制作に取り組むことができた。

- 基本的な単元計画
- ① オリエンテーション
  - ② テーマ、調査項目の設定
  - ③ 調査活動、アンケートの作成
  - ④ 入手した情報の処理、分析
  - ⑤ シナリオシートの作成
  - ⑥ 追加調査の実施
  - ⑦ ポスターレイアウト
  - ⑧ ポスター下書き
  - ⑨ ポスター着色、切貼、PC表現
  - ⑩ ポスターセッション



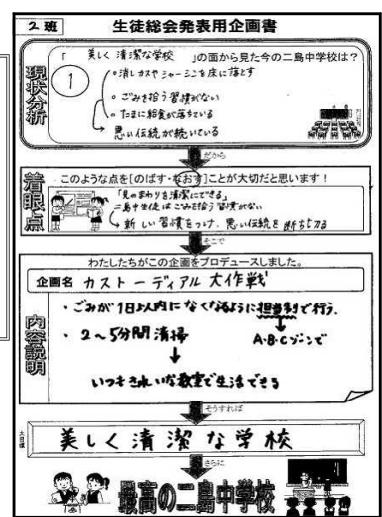
統計グラフポスタータイトル

深めよう 家族の絆
来ていますか？安全運転
みんなでボランティア輪
絶滅の危機！動物たちの今
少子高齢化 ～二島の未来を考える～
地産地消で自給率UP！

## 生徒総会の目玉 学校プロデュース

平成23年度から始まった第2・3学年合同の縦割り班で行う活動である。これは生徒総会に向けて、学校改善のアイデア企画（右プリント参照）を創り上げるというもので、企画内容として、専門委員会の活動内容の追加、集会時に行えるような新しいイベントの構想、掲示や放送の工夫、その他従来の活動の部分的変更などを例示した。各班のアイデア企画は生徒総会時に提案され、それを実施するかどうかは、全校生徒の投票によって決定した。

- 基本的な単元計画
- ① 「最高の中学校」像についての意見の表出
  - ② 学校の現状分析、課題発見
  - ③ 改善策についての協議
  - ④ 総会提案用企画書の作成
  - ⑤ 総会での発表、採決



## 地域貢献をめざす 社会参画ボランティア

平成25年度から始まった第3学年の生徒を対象とした活動である。従来のボランティア（右写真、上が独居老人訪問、下が海岸清掃）を発展させ、地域のよりよい将来像の実現のために、自分たちがしたいこと、自分たちでもできること、地域社会が求めていること、という3つの視点からアイデア企画を提案・発信し、最終的に全校生徒で実行に移すというものである。ポイントとなるのは右図「基本的な単元計画」

### 基本的な単元計画

- ① 地域住民へのインタビュー
- ② 地域の現状分析, 課題発見
- ③ 解決策についての協議
- ④ 企画提案ポスターの作成
- ⑤ ボランティア企画発表会
- ⑥ 協力メンバーの募集
- ⑦ ボランティアの実行



①地域住民へのインタビューである。生徒には地域の現状や課題，中学生に求めることについて10人以上の地域住民から意見聴取することを義務づけ、先に述べた3つの視点を備えたボランティア企画の提案を求めた。

また、この活動を3年間の総合的な学習の時間のまとめと位置づけている。それまでに身に付けた基礎的・汎用的能力を総動員させるような内容としてさらに充実させていきたい。

## プログラムの開発から評価・改善へ

このようにして現在のプログラムに至ったわけだが、反省点もある。具体的には、これまでになかった活動、おもしろそうな活動を企画しようという、はじめに活動ありきの姿勢で単元開発を続けたことである。そのため、本来であれば前もって考えなければならなかった育成したい力との関係が曖昧なまま活動が進み、キャリア教育の単元としての評価が難しくなってしまった。

そこで、現在、総合的な学習の時間や特別活動の提案文書の書き方を下の資料のように変更することを試みている。この書き方にすると、通常「目的」が記述されている部分が「単元全体を通じて育成したい力」をまとめた表に変わる。それによって、評価の観点が明確になるため、教員間での協議や目標に関する共通理解が進みやすいのではないかと期待している。評価・改善の取組は今まさに始まったばかりである。

第2学年 職場体験学習 実施要項(案)		
1 単元全体を通じて育成したい力		
基礎的・汎用的能力の具体的内容	重点指導	今年度の取組の工夫
<b>人間関係形成・社会形成能力</b> ・相手の意見を聴いて、自分の考えを正確に伝える ・初対面の相手とも臆せず会話をし、良好な関係を築く	○	・事前、ソーシャルスキルトレーニングに必要な時間を確保する。 ・職場体験活動での出会いそのものが人間関係形成能力を磨く。生徒たちには、仕事に関する意識疎通だけでなく、年齢も立場も異なる様々な人たちと良い関係を築くことを目標として提示し、努力させる。
<b>自己理解・自己管理能力</b> ・人や社会とのかかわりを通して、自分に必要な知識や技能、能力、態度に気づく ・「やれどできる」と考えて行動する ・自らの思考や感情を律する ・忍耐力 ・ストレスマネジメント	◎	・「日誌」の質問事項に体験活動先の大人の言動のうち意義を感じたことを記入する欄を設けるなど、自己理解を深めようような視点を与える。 ・事前学習における電話交渉、打合せなどを公的な場面と位置づけ、緊張感のある学習活動になるように各単位時間を工夫する。 ・事後、職場体験活動を通じて感じた「大人になるまでに身につけた力」というテーマでまとめを行わせる。 ・二島中学校初の3日間の職場体験活動、まとめのスピーチ大会までを完遂させ、成功体験を増やす。
<b>課題対応能力</b> ・仕事をする上での様々な課題を発見する	△	・考えたり、工夫して仕事に取り組めるように、職場体験活動を昨年度までよりも1日伸ばす。 ・「日誌」の質問事項に体験活動中の工夫を記入する欄を設けるなど、この部分を重視しているという姿勢をアピールし続ける。
<b>キャリアプランニング能力</b> ・「働くこと」の意義を理解する ・多様な生き方に関する様々な情報を適切に活用する	◎	・NHK教育番組「あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑～」の視聴時間を十分に確保する。 ・体験活動当日（最終日）に「働くこと」の意義など、勤労観にまつわるインタビューをさせてもらえるように事業所の責任者に依頼する。 ・事後、職場体験活動を通じて感じた「今の私にとっての働くことの意義」というテーマでまとめを行わせる。